

# 「新聞記事を活用したアクティブラーニングの実践」

～課題研究における調査研究での活用～

兵庫県立西宮高等学校 校長 藤田 浩毅  
教諭 宮本 隆史

## 1. はじめに

本校は、兵庫県西宮市、近隣には関西学院大学上ヶ原キャンパスのある「文教地区」に所在し、周辺の教育環境は大変良い。全日制単位制普通科8クラス、兵庫県の公立高校では唯一の単位制音楽科1クラスを設置している。3学年で27クラス、生徒数1,000人を超える大規模校である。授業では単位制の特色を生かし、それぞれの興味・関心・進路に応じて普通教科はもちろんのこと、商業科目をはじめ第2外国語、芸術等さまざまな特徴ある選択科目を履修することができる。

本校では平成28年度からN I Eの実践指定校として、新聞を活用した授業実践に取り組んだ。現在アクティブ・ラーニングの実践が求められているが、課題研究を中心として本校で行われた新聞記事を活用したアクティブ・ラーニングの実践報告を行う。

## 2. 実践の概要

本校では総合学習として1年次でリサーチⅠ、2年次でリサーチⅡという授業を開講している。主な授業内容はリサーチⅠでは適性検査による自己分析、高校の学び、さまざまな職業について講演や調査研究、リサーチⅡでは進学を意識して学部学科研究、そして文書作成能力育成のための表現能力講座である。リサーチⅠとリサーチⅡの集大成として3年次では学校設定科目「課題研究」が設置され、生徒たちは個人研究により各自の進路や興味・関心のある分野について調査研究を行い、最終的にはそれを論文にまとめ、パワーポイントまたはポスターセッションにまとめ発表していく。授業形態としては約20人の生徒につき教師1人が指導する。1年間の流れとしては、企画発表、調査研究、中間発表、フィールドワーク、論文作成と発表準備、最後に講座単位での発表後、優秀者については年次全体での発表会を行うという内容である。

今回、N I Eの実践指定校として新聞を「課題研究」に活用する取り組みについて、報告を行いたいと思う。

## 3. 新聞の活用方法

課題研究では、調査研究に図書室や書店の文献の活用やコンピュータ室での情報検索が主に行われている。新聞については司書の先生の協力を得て、毎日第1面を図書室前の廊下に掲示することにした。各紙の第1面を比較することにより、同じニュースであっても新聞社の視点により表現方法が違うことが一目瞭然である。廊下に掲示

することにより、図書室が開室していなくても記事を読むことができ、休み時間に熱心に読んでいる姿も見られた。残念であったのはN I Eの新聞購読期間が限られていたので1年を通じた取り組みにできなかったことである。本年度は、前期が5～7月、後期が9～11月の計6カ月であったが、来年度については前期を4～7月、後期を9～12月の計8カ月間継続して取り組みを行いたいと思う。



(図書室前の廊下へ各紙の朝夕刊第1面を掲載)

新聞については、図書室で保管し、自由に閲覧できるようにしているが、全員が一度に新聞を読み、内容を整理するのは非常に手間が掛かることから、図書委員の協力を得て、課題研究に関するテーマに基づいた切り抜きを行い、授業時間では、その切り抜きを利用して調査研究を行うという形式で行った。



(図書委員による新聞の切り抜き作業)



(切り抜きされた記事をテーマごとにトレイに分けて整理する)

新聞記事の切り抜きに関する主なテーマは以下の通りである。

- ・情報モラル

情報の光と影

情報を活用して、非常に有効だった例

犯罪に悪用された例

- ・経済

外国為替や株価の推移、日本や世界経済の影響

- ・テーマパーク

USJやディズニーリゾートの売上高、集客の推移や工夫している点

- ・広告

広告の効果や広告業界（電通など）の売上高の推移

- ・ファッション

ファッション業界（ユニクロ、しまむらなど）の売り上げの推移や販売促進の工夫

- ・飲料業界

飲料業界（サントリー、コカコーラなど）の売り上げや販売促進の工夫

- ・コンビニ

コンビニ業界の売り上げや販売促進の工夫

#### 4. 実践の内容

課題研究の授業は3年次で週2時間行われる。先にも述べた通り、個人研究で各自テーマを決め、調査研究を行うものである。インターネット検索は非常に手軽であるが、信憑性に欠ける面があること、そしてさまざまなメディアの視点を大切にするという趣旨から新聞記事を積極的に論文に取り入れるよう指導を行った。ちなみに本校生徒に家庭での新聞の購読について調査すると、ほとんどの家庭で新聞を購読している。神戸新聞などの地方紙から朝日・毎日・読売・産経といった全国紙はもちろん、日経新聞を購読している家庭も少なからず存在している。ただ、どのような記事を読んでいるかを調査すると、社会面やスポーツ面が大半で、政治や経済、国際といった紙面までは読まれていないようである。

まず、じっくり新聞を1部読むところからスタートし、新聞がどのような構成で編集されているかを知り、自分が必要な記事はどの面に掲載されているかを理解するところから活用を始めた。実践してみると、普段読み慣れない記事もあったが新たな発見もあったようで、1時間かけてじっくり購読することができた。

調査研究が一段落すると、研究をまとめる作業に入る。そのときには先に紹介した図書委員による新聞記事の切り抜きも有効に活用できた。記事にある文書を参考にすることはもちろん、表やグラフといったデータがかなり参考になったようである。もちろん新聞記事にあるデータをそのまま引用するのではなく、インターネット上のデ

ータとも組み合わせ、エクセル等の表計算ソフトウェアを用いて表やグラフにすることで説得力のあるデータを論文に掲載することができるようになった。



(新聞1部をじっくり読む取り組み)

## 5. 新聞記者派遣事業

N I E 新聞記者派遣事業として9月16日(金)午後日本経済新聞社神戸支社の福田芳久支局長をお招きし、「経済・企業ニュースの編集や取材のポイント」というテーマでご講演いただいた。1人1部ずつ当日の朝刊をご用意いただき、記者の心構えとして取材には、まず信頼関係を築くことが大切であり、記事の編集で工夫されている点や、読者に分かりやすく記事を伝えるための工夫について、実際に当日朝刊の記事も活用されながらお話しいただいた。



(記者派遣事業 講演会の様子)

## 6. 実践のまとめ

今回「課題研究」としては初めて新聞を積極的に活用する取り組みを行った。これまでは図書館や書店で販売されている書籍、インターネット検索が主であったが、新聞の活用により、書籍より新しい内容に触れることができ、インターネットより信憑性のある調査研究ができたと思う。特にデータを活用し説得力のある論文に仕上げられたのが今回の取り組みの大きな収穫であった。生徒たちの感想からも普段見られなかったさまざまな紙面に触れることができ、新たな発見があり、大変興味深かったということである。来年度もこの事業は継続されて行われるので、本年以上の成果を上げるよう生徒たちに働きかけていきたいと思う。